

## タイにおける看護教育事情

—プリンス・オブ・ソンクラ大学看護学部を訪問して—

### Nursing Education in Thailand and Report about Prince of Songkla University Faculty of Nursing

兵頭 慶子

Keiko Hyodo

はじめに

平成20年4月16日から19日に、タイ国、Prince of Songkla University看護学部 (PSUFN) を訪問した。事前に得たタイ看護協会や看護カウンスルPSUFNのホームページ情報、および訪問で得たタイにおける看護教育、また、PSUFNの教育について紹介する。

#### 1. タイの看護事情

タイにおける登録看護師 (R. N.) の数は115,569名、人口比は1/540 (2004) で、ヘルススクリーニング、ヘルスプロモーション、



\*タイの看護を象徴する花

ン、疾病予防、リハビリテーション、ヘルスマネジメント、健康教育を担っている (INFJ: 2008)。

タイの看護に関する組織は、入会は任意である「看護協会」(1971年創設) と、1985年に法的に位置づけられた免許保有者全員が所属する「看護カウンスル」の2組織があり、両者が協力しながら看護界をまとめている。この両組織が4年に1回のカンファレンスを開催し、タイの看護のあり方を決めている (両HP参照)。看護カウンスルは、大学省から委託を受け、大学の教育評価や大学設

置時のカリキュラムの適性の判断、行政への提言などを担っている。看護協会長もメンバーであり、保健省、大学省、赤十字、看護協会、バンコク市行政当局、国防省、警察に所属する看護師ら32名が主要メンバーである (看護カウンスルHP)。また、タイの看護教育は王室の貢献が大きく、最初の看護学校は現マヒドール大学であり、国王が作った助産師教育校であった。現国王の母親は看護師であり、国王の父も医学を学び、王女も看護師で、タイ看護協会のメンバーである。

#### 2. タイの看護師資格と認定法

資格認定は看護カウンスルが行う。タイでは全員が看護師と保健師、助産師の内容を学習しており、資格は看護師のみである。看護師の資格は、テクニカル・ナース、プロフェッショナル・ナース (NP)、アドバンスト・プラクティス・ナース (ANP) の3種類がある。テクニカル・ナースは、1981~98年まで存在した高校卒業後の2年間のテクニカルプログラムを修了し資格を得た看護師で、現在は養成されていない。また、NPは、大学で4年間学習している現在の基礎資格である。ANPは2003年1月に初めて認定試験が行われた新しい修士課程の修了者である。小児、精神、母性、外科、地域看護の領域がある。今のところ診断・処方ではできない。タイにはクリニカ

ル・ナース・スペシャリスト (CNS) の資格はないようである。また、1997年以降、看護師資格は5年ごとの更新制をとっている。この免許更新のために全国に50の継続教育ユニットがあり、セミナーへの参加、論文発表、教育に関わる、カンファレンスへの出席など50時間以上の教育の受講と学術的な活動が更新の条件となっている (看護カウシルHP)。

### 3. タイの看護教育

INFJの資料によると、看護教育は、1978年に大学教育に移行し、1981年にはすべて大学教育に移行し、2005年では65校で教育され、卒業に必要な単位は140～150単位である。また、修士課程は1973年に Chulalongkorn 大学で開始し、11校 (2005) あり、CNSやNP (現在はANPに統一) を輩出している。博士課程はMahidol大学で1987年に教育を始め、8校 (2005) にある (INFJ: 2008)。また、高等教育のための人材育成は、タサナ・ブント博士、タイ国看護評議会会長の発案で、主に5大学での共同プログラムの運用と、1年タイで学びその後海外へ留学 (サンドイッチプログラム) するという方法で行われている (松下: 2004)。

### 4. プリンス・オブ・ソンクラ (Prince of Songkla University) 大学看護学部の看護教育

PSUはプーケットを始め、5か所にキャンパスがあり、看護学部はバンコクから1,000キロ南、マレーシアの国境に近いHat Yaiにあり、Songklanagarind病院が隣接している。学士課程、修士・博士課程があり、一学年120名の学部生、9



<Hat Yaiキャンパスの全景>



<看護学部の玄関>

5名の修士課程生、20名の博士課程生を合わせ740名くらいの学生が在籍している。また、看護学部の教職員は117名である。

#### 1) 看護学部の歴史

1972年に医学部に開設され、1980年9月7日に看護学部へ昇格している。1973年当初はソンクラ看護短期大学、准学士課程 (Associated Degree) として17名の学生を受け入れ、看護と健康に関するカリキュラムを開始している。翌1974年に20名の学生が学士課程に入学している。1978年には6ヶ月の助産学のカリキュラムが学士卒業生のために提供され、その年は13名の卒業生が助産師の証明書を受けている。1980年にカリキュラムは学士 (B. Sc) (看護学および助産学) に変更されている。また、8年後の1987年に当初おかれた学士修得のための2年の継続カリキュラムが閉鎖され、1988年には4年プログラムのみ看護学士課程 (B. N. S.) に変わっている。

現在の看護基礎教育は、看護師と助産師の資格が取れる4年の看護学士課程のみであり、定員は1学年160名、今後240名に増員される予定だそうである。

#### 2) ビジョン

看護学部では、2012年までに東洋の英知とホリスティックケアを看護への統合に焦点をあて、東南アジアにおける看護リーダーの育成をめざしている。

## 3) 看護学部の管理運営組織

看護学部の管理運営組織として以下のような役割が置かれている。

## &lt; Faculty Administrators &gt;

The Dean, Dean for student Affairs, the Associate Dean for Administration, the Associate Dean for Planning and Development, the Associate Dean for Research and International Affairs, the Associate Dean for Outreach, the Associate Dean for Academic Affairs, the Assistant Dean for Quality Assurance, the Assistant Dean for Graduate Studies, the Assistant Dean Academic Affairs, The Assistant Dean for Education Management

ホームページや自己紹介などで前面に紹介される教員の肩書きは、看護の専門領域ではなく、運営上何を担当しているかであり、教育、臨床、研究、学校経営、地域貢献という5つの大学教員の役割のうち、学校経営、管理運営に対する意識が高いことが伺える。

## 4) 看護学部の講座 (Department)

公衆衛生看護学 (Public Health N.), 精神看護学 (Psychiatric N.), 看護管理 (Administration N.), 看護教育学と看護サービス (Education and Nursing Service), 外科看護学 (Surgical N.), 内科看護学 (Medical N.), 小児看護学 (Pediatric N.), 産婦人科看護学・助産学 (Obstetric Gynecologic N. and Midwifery) の7講座が置かれている。

## 5) 看護卒後教育

5つの卒後教育プログラム、臨床系看護修士課程を5領域、成人看護学、家族・地域看護学、看護管理学、精神保健・精神看護学、小児看護学で、臨地系の看護修士課程 (地域における Nurse Practitionerのプログラム)、外国人向けの修士課程、Master of Science (Health System Research and Development), そして博士課程(International Program) (表2) を開設している。

また、修士・博士課程のカリキュラムは表1 (修士課程)、表2 (博士課程) のようである。

表1 &lt;修士課程 Curriculum&gt;

Typed of Courses	Plan A (A2)	Plan B
Core courses	11	11
Specialty courses	13	13
Subspecialty courses	4	8
Elective courses	-	2
Thesis	12	-
Minor Thesis	-	6
Total Credits	40	40

いずれも少なくとも500時間の実習を含む

表2 &lt;博士課程 Curriculum&gt;

Typed of Courses	Plan 1	Plan 2
Core courses	-	8
Elective courses	-	6
Thesis	50	36
Total Credit	50	50

## 6) 短期継続教育プログラム

4つの短期トレーニングプログラム (International programs), ヘルスプロモーションに関連するナースプラクティショナーのプログラム, 老年看護学, ホリスティックケア看護 (in Critical Illness), 新生児・小児クリティカルケアを開講している。

そして、11のセルフケアに関するプログラム, 慢性疾患, 小児および家族ケア, 看護倫理, ヘルスプロモーション, HIV/AIDS, 看護管理/質の改善, 疼痛管理, メンタルヘルスおよび精神看護, 女性の健康, 高齢者, 東洋の英知を開講している。

## 7) 研究活動

研究は図1のような組織により、若手の海外での博士号取得者を中心に、多くの国内外との連携により進められている。

また、タイ国内の博士課程を有する大学教員が交流し、看護研究を推進するための大学間ネットワークである、看護共同研究ネットワーク (CRNN : Collaborative research network in Nursing) があり、7領域の研究を行っている。そのうち PSUFNは「高齢者」の研究を主に担当している。

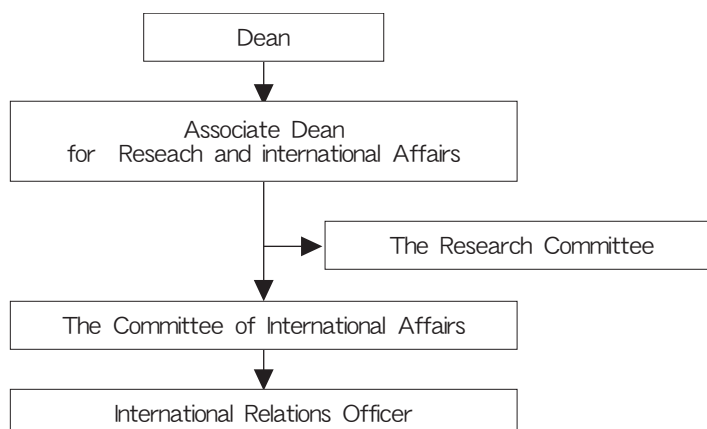


図1 研究組織

## 8) 附属施設

### (1) Center for Holistic Health and Eastern Wisdom

このセンターは、東洋の英知とホリスティックケアの統合に焦点をあて教育と実践、研究を行うために創設されている。子どもとティーンエイジャー、そして女性の健康と高齢者の健康増進とリハビリセンターからなっている。学生の演習、介護者のトレーニング、研究の場になっている。

### (2) The Health Promotion and Rehabilitation Center for the Elderly

1993年2月に開設され、主にヘルスケアサービス、例えば運動やゲーム、文化的な活動および黙想などが提供される。また、健康に関することが定期的に講義される。学生の演習、介護者のためのトレーニング、看護研究のために活用されている。週3日開かれ、80から150人の参加者があり、現在約500人のメンバーがいる。

### (3) Early Childhood Development Center

1986年に育児および子どもの成長を促進するために設立されている。4か月から3歳までの心身ともに健康な子どもたちと、休日における学童のためにディケアを提供している。また、看護学生のトレーニング、および研究のために使用されている。

### (4) Center for Research in Nursing and Public Health

1991年に開設され、研究活動を促進し、学部のスタッフおよび14の南タイ地域からの看護職員の研究能力のトレーニングをするために置かれている。また、看護学部と公共機関、外国の諸機関をつなぐ研究プロジェクトのための情報を提供している。最近の研究は、ヘルスプロモーション、高齢者のケア、倫理、ホリスティックケアと東洋の英知を統合することをめざしている。成功を収めている看護研究の例は、南タイのイスラム教のコミュニティのためのエイズ防止およびケアプログラム、タイに合った癌の苦痛サポートモデル開発(ハジャイ癌患者の苦痛救助モデル)、タイの看護サービスと看護教育間の共同プロセスと成果の調査、タイの看護師の転職に関する調査、睡眠問題と健康の関係などである。

### (5) Learning Resource Center

臨床実習前に技術を改善すること、および看護学生の信頼を高めることを目標に1993年に設立されている。学生に看護技術(Procedure)のシミュレーション機会を、self-directed学習の機会として提供している。日本における各領域の演習室が1か所に集められ、4名の専属スタッフが配置され、学生への指導、学習設備・備品の整備を行っている。視聴覚教材も整備されている。

おわりに

今回のPSUFN訪問は、国際交流委任経理金から訪問旅費の負担を頂き実現した。免許の更新制、NPの教育、資格制度が既に定着しており、卒後・継続教育も充実し、地域貢献も推進されていた。また、外国で学んできた若手教員を中心に東洋の英知、タイの文化を大切にしようとしている姿に触れることができた。そしてLearning Resource Centerは、看護技術力をつけるためのひとつの方策であると思う。このような貴重な経験ができたことを、宮崎大学と、快く受け入れ時間を割いて対応して下さった、PSUのLadawan看護学部長、研究および国際担当のUrai教授をはじめ、諸先生、担当事務の方々に深く感謝いたします。

引用・参考文献、資料

- 1) INFJ (国際看護交流協会) : Nursing in the world ( 5 th Edition), p168, 171, 172 (Thailand : 165-172).
- 2) 松下光子, 堀内寛子, 斎藤和子 : タイにおけ

る看護および看護教育の現状 - 3 大学の看護学部への訪問より - 岐阜県立看護大学紀要, 4(1) ; 147-153, 2004.

- 3) Prince of Songkla University Faculty of Nursing  
H.P. : <http://www.nur.psu.ac.th> (2008)
- 4) Prince of Songkla University Faculty of Nursing 紹介リーフレット
- 5) The Nurses' Association of Thailand  
H.P. : <http://www.nat.au.edu/> (2008)
- 6) The Nursing Council of Thailand  
H.P. : <http://www.moph.go.th/ngo/nursec/aboutus.htm> (2008)

Prince of Songkla University :

P.O. Box 9 Kho Hong, Hat Yai, Songkhla Thailand 90112  
Tel. (66-74) 213060  
Fax. (66-74) 212901, (66-74) 212828  
E-Mail : [nursing@ratree.psu.ac.th](mailto:nursing@ratree.psu.ac.th)